

【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

～水よう液区別の予想と実験～

川西小学校6年生 理科

I. 「5種類の水よう液を、どうすれば区別することができるか」を課題として、タブレット端末を活用。「におい、見た目、蒸発」等の区別要素の予想や自信度をGoogleフォームで入力、Class roomで共有。友達の見方や考え方を参照し、新しい気付きを生み出す。



II. 実験道具の使用方法も、持ち方やポイント写真を写真と文字で解説し、授業進捗に取り残されないよう工夫する。子どもたちの実験に併せて、教諭の実験動画や友達の実験の様子を共有することで、工夫や気付きを発見することに繋がるように図った。

III. 実験結果をスプレッドシートに記録し、成果を積み上げる。友達の結果と照らし合わせ、疑問点を確認・相談し合う。実験グループごとに進め方や考え方の色が出て、個性のある結果が生まれた。「この実験だけでは区別できない水よう液があった。さらに区別する方法はないか」という子どもの振り返り・興味に繋がっていた。

